

第1回検討協議会の振り返り

1 第1回会議の総括

第1回検討協議会では、大甕・太田地区の子どもたちにとって望ましい教育環境をどのように整えるかを目的に、事務局から市の方針・義務教育学校等の制度説明が行われました。

委員からは多様な質問や意見が出され、義務教育学校ありきではなく、子どもたちに最適な学びの姿を検討するスタートの場となりました。

2 説明事項（委員等の意見・質問と事務局回答の要約）

○ 委員等 ⇒ 事務局

（1）少子化と地域の現状

○ 原発事故後、地域の子どもの数が減り、地域行事・スポーツ活動も縮小している。

⇒ 認識しており、地域の特色をどう継承するか検討していく。

（2）小規模特認校や特色づくり

○ 特色づくりは市の施策と連動できるのか。

⇒ 委員・学校・地域で創るもの。市の施策も活用可能。

義務教育学校でも小規模特認校制度は併用できる。

（3）地域の伝統文化の継承

○ 稲作体験、野馬追、法螺貝などを学校文化として継承してほしい。

⇒ 地域資源として新しい学校にも生かす方向で検討。

（4）幼小連携・未就学児保護者の不安

○ 幼稚園と小学校の連携継続と未就学児保護者の不安解消が重要。

⇒ 大甕幼稚園の今後については、所管課が異なるため具体的には言えない。

ただ、幼稚園と小学校の連携は重要だと考えている。

⇒ 不安は理解しており、未就学児保護者への丁寧な説明に努める。

（5）制服や施設整備

○ 制服は新しくなるのか。

⇒ 保護者意見を聞きながら検討可能。

(6) 児童数増加と特認校制度

○ 魅力化で児童が増えた場合はどうなるのか。

⇒ 定数以内（1学級 25 人程度想定）なら問題なし。

増加時は制度解除も選択肢。

3 協議事項（委員意見の整理・要約、説明事項での意見含む）

(1) 大甕・太田地区の教育が目指すこどもの姿

- ① 思いやりを持ち、同学年・異学年同士で成長し合う
- ② 地域を愛し誇りを持つ
- ③ 得意を伸ばし自己肯定感を育む
- ④ 協調性・多様性（他者への理解）を育む
- ⑤ 基礎学力・体力を身につける
- ⑥ 挨拶や生活習慣など基本を大切にする

(2) 目指すこどもの姿を実現するための教育環境

① 地域資源を生かす

稲作、農業体験

野馬追・法螺貝

地域合同行事

地域人材との協働

ロボット産業との連携

② 多様な学びの提供

スポーツ・文化の選択肢拡大

プログラミング・英語などの強化

報徳仕法の学び

発表や挑戦の場づくり

③ 人間関係と多様性（他者への理解）を育む環境

異年齢での活動や交流

幼小連携の継続・強化

交友関係の幅拡大（他の学校・地域との交流）

④ 安心して学校に通える環境

児童生徒、保護者の不安を解消

未就学児家庭への丁寧な配慮

オンライン授業など柔軟な選択肢、通いやすい学校づくり

4 次回会議に向けて

現状の教育環境の良さと課題、地域の教育環境の特色と魅力を整理し、次のステップの議論へ進みます。